

## 第7章 運営体制の方針

## 第1節 現状の地域団体

現在、調査対象地区に存在する自治会や地域団体の詳細及び管理運営状況を把握するために、ヒアリング調査を行った。その結果を表7-1、2、3にまとめる。

各団体の調査項目は、「創立年」「構成員数」「資金規模」「構成（代表者・属性内容）」「組織形態（組織内容・集会）」「目的の内容」「活動内容」である。

また、調査対象者は以下のとおりである。

### 〔鉄輪温泉地区〕

自治会について・・・別府市役所

地域団体について・・・「鉄輪愛酎会」「かんなめ会」「湯けむり倶楽部」「鉄輪共栄会」各団体の代表者または関係者

### 〔明礬温泉地区〕

自治会について・・・自治会長

地域団体について・・・「明礬旅館組合」「明礬温泉湯の花製造技術保存会」「明礬温泉協同組合」各団体の代表者または関係者

## 1 鉄輪温泉地区

表7-1より自治会は、「御幸自治会」、「風呂本自治会」、「鉄輪上自治会」、「井田自治会」、「鉄輪東自治会」、「北中自治会」、「北鉄輪自治会」の7つが存在する。創立当時からどの自治会も住み良いまちづくりを目的としている。活動内容は、温泉祭りの参加や清掃活動、敬老会や忘年会などの各種行事である。全ての自治会で創立目的、現状の活動内容ともに、生活環境維持に関する内容であることがわかった。

地域団体では、「鉄輪愛酎会」、「かんなめ会」、「鉄輪湯けむり倶楽部」、「鉄輪温泉共栄会」、「鉄輪地獄組合」、「鉄輪旅館組合」、「鉄輪商工会」、「鉄輪温泉旅館組合」、「鉄輪やまなみ組合」、「みゆき坂通り会」、「いでゆ坂通り会」、「すじ湯通り会」、「銀座通り会」、「湯けむり通り会」、「やすらぎ通り会」、「御幸婦人会」の16団体の地域団体が存在する。このなかでも、「鉄輪愛酎会」、「かんなめ会」、「鉄輪湯けむり倶楽部」、「鉄輪温泉共栄会」の4団体が助成事業を受けて、まちづくりをすすめるなど、積極的な活動している。創立当時、「鉄輪愛酎会」は鉄輪の浮揚を図ること、「かんなめ会」は女将同士の情報交換をすること、「鉄輪湯けむり倶楽部」は地域経済の活性化に寄与すること、「鉄輪温泉共栄会」は観光客の誘致に努め鉄輪の発展に寄与することを目的としている。

現在では「鉄輪愛酎会」は宣伝活動、鉄輪焼酎の製造・販売、「かんなめ会」は湯けむり工芸展の開催、祭りの参加、「鉄輪湯けむり倶楽部」は鉄輪の町を歩いて紹介する鉄輪湯けむり散歩の開催、案内板の設置、「鉄輪共栄会」は祭りの開催などの活動を行っている。全ての団体で創立目的、現状の活動内容ともに、商業・観光活動に関する内容であることがわかった。「かんなめ会」では通りの清掃活動を行っているため、生活環境維持に関する活動も加えて行われている。

そして、鉄輪温泉を拓いたとされる一遍上人を敬う湯あみ祭りや温泉の恵みに感謝する温泉祭りの開催や、原風景形成期から存在した「井田洗濯場」開放のための事業、湯けむり散歩の実施など、4団体ともに文化・歴史に関連のある活動を行っていることがわかった。

## 2 明礬温泉地区

表7-1より自治会は、「明礬自治会」が存在する。創立の目的は、市政の補助的な役割として組織された。活動内容は、生活環境維持が主な目的である。

地域団体は、「明礬旅館組合」、「明礬温泉湯の花製造技術保存会」、「明礬温泉協同組合」の3団体が存在する。「明礬旅館組合」については、ヒアリングによる調査結果が得られなかったため、不明な事項としている。創立当時、「明礬温泉湯の花製造技術保存会」は「薬用・湯の花」製造技術の保存・伝承をすること、「明礬温泉協同組合」は明礬温泉地区の広報活動や景観保全をすることを目的としていた。現在では「明礬温泉湯の花製造技術保存会」は湯の花製造技術の保存・伝承、「明礬温泉協同組合」は広報活動や特産品考案などの活動を行っている。明礬温泉地区に存在する団体は創立目的、現状の活動内容ともに、商業・観光活動に関する内容であることがわかった。「明礬温泉協同組合」では明礬地区清掃活動を行っているため、生活環境維持に関する活動も加えて行われている。

## 第2節 主な景観構成要素の今後の管理・運営

ワークショップにおいて抽出された各景観構成要素に関する意見および、各景観構成要素についての今後の管理・運営意見を表7-2、7-3に示す。また、抽出された各景観構成要素の管理・運営方法は、これまでの管理・運営方法の変遷による影響が大きいと考えられる。そのため、管理・運営の変遷を示した抽出意見を表7-2、7-3に記載する。各景観構成要素の変遷を踏まえ、抽出された意見の傾向を以下に述べる。

### 1 鉄輪温泉地区

過去・現在を通して住民個人で所有され、所有者によって管理・運営されている要素は今後も個人で管理するという意見が聞かれた。該当する言及のあった要素は「旅館」、「地獄」、「気液分離装置〈タンク〉」である。

しかし、現在住民個人にて管理されている要素の中には、旅館のように「後継者不足の問題がある」といった声が複数聞かれ、住民も今後の運営の継続が不安視されていることが分かった。また、地域住民により管理されている要素でも、現在市有区営温泉である「地獄原温泉」で「組合員が少ない状態である」との声が聞かれ、今後の管理方法の維持が危ぶまれるものも存在する。

区営温泉や「温泉神社」など、現状で地域住民により管理方法が定まっている要素については、今後も現状の方法での管理が良いとする意見が聞かれた。地域の人々により管理される現在の方法が、地域のなかで定着していることが分かる。

「地獄釜」は現状のまま個人での管理で良いという声が聞かれたが、かつては地域住民によって管理されていた要素である。かつての地域住民間での共同利用ではマナーの悪さが問題になり、現在のように個人での所有へと変化していったという。今後、地域住民間での管理を行うには、何らかのルールづくりが必要であり、そのルールに従って協力して管理していくことが必要とされている。

住民間での管理ではなく第三者で管理されている要素では、市有市営温泉や遺構が挙げられる。市有市営温泉である「熱の湯」において、「利用者のマナーが悪く、汚い」との意見が抽出された。同要素に関する意見では、「無料ではなくても良いのではないか」「有料にした方が良い」といった意見もあり、住民の中には今後の管理・運営方法を改善させたい意向を持つ者が存在することが分かった。

### 2 明礬温泉地区

過去・現在を通して住民個人で所有され、所有者によって管理・運営されている要素は今後も個人で管理するという意見が聞かれた。該当する言及のあった要素は、地獄、旅館、湯の小屋事務所跡・倉庫、湯の花製造所の石製門、気液分離装置〈タンク〉、湯の花小屋である。

このうち、旅館や湯の花小屋は数が減ってきており、廃業になった旅館や骨組みだけ残されている湯の花小屋も存在している。これらを含む個人での管理・所有をされている要素は、外部からは管理方法について言及し難いとの意見が多く、各要素の今後の存続について危機感を感じながらも言及が出来ないでいる状況であることが分かった。

「神井泉」など現状で地域住民により管理方法が定まっている要素については、今後も現状の方法での管理が良いとする意見が聞かれた。地域の人々により管理される現在の方法が、地域のなかで定着していることが分かる。

しかし、「神井泉」は地区東部の住民数名のみにより管理や使用されているが、今後高齢化が進むと現在の管理方法を存続できなくなる恐れもある。

「地獄釜」は現状のまま個人での管理で良いという声が聞かれたが、かつては地域住民によって管理されていた要素である。かつての地域住民間での共同利用ではマナーの悪さが問題になり、現在のように個人での所有へと変化していったという。今後、かつてのように地域住民間での管理を行う可能性も考えられるが、それには何らかのルールづくりが必要であり、そのルールに従って協力して管理していくことが必要とされている。

住民間での管理ではなく第三者で管理されている要素では、市有市営温泉が挙げられる。今後も現在と同じく市役所による管理方法とする意見が抽出されたが、現在休止している「地蔵泉」については、利用者のマナーが問題となり湯を止めたという経緯がある。温泉の復活のためにこれらの問題の改善が望まれており、管理や利用に関し何らかのルールづくりが必要とされていることが明らかとなった。

#### 表の凡例

今後の管理・運営に関する意見

今後の用途・機能に関する意見

過去の事実

現状の事実 ・ 上記以外の事柄

表7-1-1 対象地区に存在する自治会・地域団体

名称	創立年	構成員数	資金規模	代表者		構成(人の属性)		組織形態				目的の分類				活動内容				活動内容詳細	助成事業
				収入	支出	収入	支出	属性内容	組織内容	集会	生活環境維持	商業・観光	その他	目的の内容	生活環境維持	商業・観光	その他	文化・歴史に関連			
御幸自治会	※	※	収入 1,928,980 支出 1,075,174	河野 忠二	地区住民	総会 役員会	年回 年3回	○				町内公民館活動の推進により、自治意識を持った住民を育成し明るく住みよい町づくりを目指す	○				温泉祭り、公園清掃、公民館清掃、全町一斉美化運動(クリーン運動)、クリーン別府、町内清掃、町内休養施設巡回大会、バグ、鉄輪湯あみ祭り、天満神社秋祭り、町内夜遊	-			
風日本自治会	※	※	収入 1,147,112 支出 511,466	河野 忠之	地区住民	総会 役員会 運営委員会	年回 月1回 月1回	○				町内公民館活動の推進により、自治意識を持った住民を育成し明るく住みよい町づくりを目指す	○				温泉祭り、早期夜遊安全指導、公民館総発汗、市内一斉清掃、町内清掃、敬老会、鉄輪湯あみ祭り、天満神社秋祭り、歩こう会、忘年会	-			
鉄輪上自治会	1965年	100世帯	収入 1,928,980 支出 1,075,174	安波 武弘	地区住民	総会 役員会	年回 月1回	○			別府市取のまよで住居として協力し鉄輪上の発展と振興を図り、豊かで健康な町づくりを目指す	○				温泉祭り、町内一斉清掃、球技大会、納涼盆踊り、敬老会、秋祭り、歩こう会、風神祭、体育大会、産品回収、町内清掃、鉄輪湯あみ祭り、しゃい、鉄輪	-				
井田自治会	1976年	98人 (35世帯)	収入 653,439 支出 406,480	後藤 章	地区住民	総会 役員会	年回 月1回	○			井田町の発展と井田町自治会員の相互の親睦を図る	○				温泉祭り、全町一斉清掃、町内清掃、校区運動、レクリエーション、敬老会、秋祭り、公民館清掃	-				
鉄輪真自治会	※	490世帯	収入 3,506,639 支出 3,482,906	後藤 藍文	地区住民	総会 役員会 運営委員会	年回 月1回 月1回	○			安心・安全・明るく町づくりや住民の連携・団結・福祉を図り町内を大きな家族として居る家族の町内運営を目指す	○				温泉祭り、町内大運動会、町内清掃、町内大盆踊り大会、敬老会祝賀会、選抜訓練、忘年会、老人会誕生会、子ども会、クリスマス会、町内ハトリロール	-				
北中自治会	1951年	463世帯	収入 4,270,007 支出 3,854,641	吉野 正幸	地区住民	総会 役員会 運営委員会	年回 月1回 月1回	○			町内の朝礼名園、行政との連携を築き、町内全額にわたる自治行政の普及徹底を図る町内運営を目指す	○				温泉祭り、町内大運動会、町内清掃、町内大盆踊り大会、敬老会祝賀会、選抜訓練、忘年会、老人会誕生会、子ども会、クリスマス会、町内ハトリロール	-				
北鉄輪自治会	1975年	約1,400人 (305世帯)	収入 2,733,588 支出 2,667,370	友永 忠同	地区住民	総会 役員会	年回 月1回	○			鉄輪視察の旅券により、町内を観光し、鉄輪の浮揚を図る	○				盆踊り大会、敬老会祝賀会、正月餅つき	-				
鉄輪壹割会	1982年	約110人	収入 1,200,000 支出 1,200,000	河野 忠之	鉄輪住民を主体とする関係者	不定期 定例会	不定期 月1回	○			鉄輪視察の旅券により、町内を観光し、鉄輪の浮揚を図る	○				鉄輪視察の旅券・販賣、湯けむり後句、湯けむり散歩、鉄輪こぶみ、宣伝活動	併句による町づくり事業、鉄輪別荘ツーリズム事業(市)				
かんなめ会 【鉄輪女性の会】	1997年	6人	収入 1,200,000 支出 1,200,000	後藤 美鈴	鉄輪地区で温泉旅館やホテルを営む女性皆さん	不定期 定例会	不定期 月1回	○			町内の清掃活動、湯けむり工芸展の開催、鉄輪湯あみ祭りの参加、温泉祭りの参加	○				湯けむり後句、湯けむり散歩、鉄輪こぶみ、宣伝活動	H15年度泉郷別府まちづくり支援事業(市)				
鉄輪湯けむり倶楽部	2000年	約168人 役員12人	収入 2,503,857 支出 1,734,333	甲斐 賢一	地域の男女や鉄輪に魅せられた全員の男女(初期165名)	通算総会 臨時総会	年1回 不定期	○			鉄輪地域及びその周辺地域のまちづくりに関する事業実行、地域住民と共に地域経済の活性化に寄与する	○				「井田法」現場開放のための代替物置設置事業、まちかど案内掲示板の設置事業、湯けむり散歩、温泉蒸気活用研究事業、他団体等の各種行事へのサポート	H17年度泉郷別府まちづくり支援事業(市)、鉄輪湯あみ祭り開催、温泉祭り開催				
鉄輪温泉林学会 (鉄輪倶楽部)	1965年	約2,500人 役員38人	収入 ※ 支出 ※	園上 重一	鉄輪旅館組合、商工連合会、別荘地組合、温泉旅館組合、自治会	総会 役員会	年1回 年3~4回	○			鉄輪及びこれに隣接する観光地帯を広く宣伝紹介して観光客の誘致に努め鉄輪の発展に寄与する	○				鉄輪温泉地区まちづくり整備事業受入協議会、鉄輪湯あみ祭り開催、温泉祭り開催	鉄輪湯あみ祭り				
明誓自治会	※	52世帯 (法人も含む)	収入 年間36,000円 (1世帯当たり)	是永 保孝	地区住民	総会 役員会	年1回 年3回 年3回	○			市政の補助的な役割	○				市の一斉清掃、町内専判、公園清掃、奉仕活動、敬老会、敬老会、火葬神社の清掃、山の手ハトリロール、交通安全、防災訓練	H20年度ふるさと文化再考事業(地域文化伝承事業(国))				
明誓温泉湯の花製造技術保存会	2005年	23名	収入 組合員5社より 年会員10,000円	岩瀬 公男	湯の花製造に関する有識者	不定期	不定期	○			湯の花製造技術の保存・伝承	○				湯の花製造技術の保存・伝承					
明誓温泉協同組合	2010年	10施設	収入 500,000円	岩瀬 智昭	※	※	※	○			大分県内外、海外へ向けられた広報活動や、新たな特産品や行事の企画、開発、実行、歴史の研究、継承、景観の保全	○				明誓温泉のブランドディング、広報活動、広報誌の発行、特産品開発、春闘保全の検討、明誓地区清掃活動、リーフレット、地域内観光の作成	-				

※・・・不明な事項

表7-2 抽出された管理・運営および用途・機能に関する意見 [鉄輪温泉地区]

言及された要素郡	名称	言及内容まとめ	言及内容	班	
鉄輪地区全体について			他地区との区別化、差別化のPRをし、鉄輪地区の情報発信をしたらどうか。	B	
温泉	市有市営温泉	熱の湯	・周辺環境の整備(駐車場)	利用者のため、駐車場を整備した方が良い。	B
			・ルールづくりや有料化など、現状の改善	現状の管理・運営が良い。 市営で無料だが、マナーが悪く汚いため有料にした方が良い。 集会所と温泉が併設されている。 市営でなく、区営にしたらどうか。 他所から来た人も満足できるような温泉にしなければならない。	C A B B
	市有区営温泉	谷の湯 洪の湯 地獄原温泉	・現状維持(区営)	組合で運営している所は現在の管理方法が続いていくだろう。	A
				温泉管理組合が複数存在し、源泉ごとにあると思われる。	A
				温泉のボーリングの会社が複数あり、源泉を把握しているのではないか。	A
				メンテナンスは組合で行っている。 組合員以外の利用者からはお金をもらっている。	A C
	市営温泉(指定管理者有り)	蒸し湯	・組合員不足の改善	集会所と温泉が併設されている。	C
				以前は市営温泉であったが、利用者のマナーが悪かった(駐車の問題など)。 観光客と住民が共に利用するため、何らかのルールづくりが必要であった。 コインロッカーを設置し、そこにお金を入れるシステムにしている。	B B B
	私有私営温泉	ひょうたん温泉	・現状維持(個人の管理)	組合員が少ない状態。 駐車の問題がある。	B B
	貸間・旅館	誠天閣 みどり屋・上富士屋	・後継者不足の改善 ・現状維持(個人の管理)	障害者用の駐車スペースはあるが、一般の駐車スペースはない。	B
個人で管理をしているため口出し出来ない。				A	
鉄輪は温泉の量が豊富なので、買い手が現れる。				A	
温泉管理組合が源泉ごとに存在し、その源泉から契約している各旅館などに湯が通っている。				A	
源泉の数は限られている。				A	
人間関係のつながりから、源泉の湯をもらう。				A	
掘削会社である「大田ボーリング」が源泉を把握していたのではないか。				A	
後継者不足であり、後継者がいなくなると貸間・旅館も無くなる恐れがある。				A	
貸間であるのは、大黒屋・双葉荘・中野屋・陽光荘。				A	
湯浴客が減っており、デブサービスや介護サービスが影響していると考えられる。				B	
九州横断道路ができたころの昭和30年代が当時客が最も多かったが、現在の宿泊客は当時の3分の2に減少している。	B				
週末だけの利用客が多い。	B				
湯浴宿以外の旅館・貸間も地獄釜は所有している。	B				
現状のように個人の管理・運営が良い。	C				
現在は経営していない。	C				
地獄釜を所有していない。	C				
神社	温泉神社 温泉山永福寺	・現状維持(地域住民の管理)	神社では、西福寺や天満神社も重要である。	C	
			現状のシステムが維持されていくのではないか。	B	
			7町内で2人ずつ総代を決め管理している。 今後の管理も現状のままで良い。	C C	
一還上人と関わりがある。	C				
遺構	洗の湯の湯湯跡 洗濯場	・周辺環境の整備(ベンチ、植栽、案内板)	周辺に緑が欲しい。	B	
			ベンチを置くなど、くつろげる場所にしたい。	A	
	熱の湯の湯元跡	・周辺環境の整備(内部の解放) ・他用途への利活用(足湯など)	過去の機能についての案内板や過去の写真を表示したらどうか。	B	
			洗濯場以外の要素は活用が難しい。	C	
			現状では人が入りづらい状態。	B	
			温泉が無くなっている。	A	
現状のままでは水を入れると腐るが、石が残っているので足湯などに活用したらどうか。	A				
かつて牛を洗っていた。	B				
囲ってしまうのは良くない。	C				
お湯が全く出していない。	A				
かつては飲むことが出来るお湯が出ていた。	C				
地獄	金龍地獄	・現状維持(個人の管理)	共同では管理できないので、今後も個人の管理・運営が良い。	B	
			後継者がいる間は経営が続いていくだろう。	B	
地獄釜・気液分離装置 <タンク>	地獄釜	・現状維持(個人の管理)	地獄組合から抜けた。	A	
			ひょうたん温泉と同じ所有者が管理している。	A	
			地獄の中で湧出量が最も多い。	C	
			熱源が減ってきている。	B	
			今後30~40年は資源が保たれるが、その後が心配である。	B	
	今後、管理に関して補助や助成はあるのか。	B			
	現在は200メートル掘らなければ噴気が出てこない。	B			
	個人の大切な財産なので管理・運営は個人ですべき。	C			
	現在建設している新しい施設は市長が管理したらどうか。	A			
	現在建設している新しい施設は、最初の一年は地域団体が委託をすることになっており、その後売り上げなどのデータを得て、指定管理者を募る。	A			
昔は地域住民が共同で使っていたが、他所から来た人が散らかす等マナーが悪く管理が難しくなり、個人の管理に変化。	B				
管理には費用がかかる。	B				
60年程前は、1メートル掘るだけで地獄釜が出来ていた。	B				
気液分離装置 <タンク>			分流装置とは熱水と水蒸気に分けるもの。	C	



表7-3 抽出された管理・運営および用途・機能に関する意見 [明礬温泉地区]

言及された要素郡	要素名	言及内容まとめ	言及内容	班	
全体			個人で管理されているものについては言及が難しい。	A	
			市営以外は全て個人であり、共同管理は難しい。	B	
明礬地獄		・現状維持(個人の管理)	明礬地獄でも湯の花の製造を行っている。	B	
			岡本屋が現在所有し、経営している。	B	
			昔はこの周辺一帯が湯の花小屋であった。	B	
			所有者である岡本屋さんが管理するべきである。	C	
			明礬地獄は最近できた(15年前程度)。	C	
温泉	私有温泉	神井泉	・現状維持(個人)	元々は、近くに住民が利用していたが、付近の温泉が使えなくなって明礬地区以外の温泉に通う住民もいる。	A
				高齢者ばかり、7件ほどの家が使っている。	A
				今後ずっと存続していくことは難しい。	A
	市有市営温泉	地蔵泉	・現状維持(区営) ・ルールづくりなど現状の改善 ・周辺環境の整備(駐車場)	利用されているときは、観光客のマナーが悪かった。	A
				停止することによって周辺4つの旅館がつぶれた。	B
				復活してもらいたい。	B
				車などのマナー問題が原因で停止した。	B
				温泉はまだ出ている。	B
				建て替えて7、8年、停止してから5年が経つ。	B
				管理方法は現在と同じ市営で行う。	C
地蔵泉・鶴寿泉	・現状維持(区営)	市営の方が楽である。	A		
		駐車場が無く、付近に観光客が車を停めるといった問題がある。	A		
		観光客がエンジンをかけたまま車を停車して、うるさくて眠れないことがある。	A		
		市営の温泉は、交代制で管理している。	A		
		管理方法は現在と同じ市営で行う。	C		
貸間・旅館		・現状維持(個人の管理)	各所有者が管理するのがよい。	C	
	大和屋		廃業している。	A	
	すい荘		廃業しており、建物自体が既らない。	AB	
湯の花組合 事務所跡・倉庫		・現状維持(個人の管理) ・整備(外観)	観光客の目につくので、窓など外から見える部分は手入れをする方がよいのではないかと。	A	
			所有者である岡本屋さんが管理するべきである。	C	
遺構		・周辺環境の整備(案内板)	お湯をONSENなく必要のないもので、利活用は難しい。	A	
			案内板を立てたり、昔の写真を掲示したらどうか。	AB	
	地蔵泉の滝湯跡	・現状維持(地域住民の管理)	地域の住民が当番で掃除している。	C	
			管理方法は現在と同じで地域の人々の管理で行う。	C	
	薬師湯の滝湯跡	・現状維持(個人の管理)	土地所有者である岡本屋さんが管理するべきである。	C	
湯の花製造所の石製門		・現状維持(個人の管理)	今後も存在してほしい。	A	
			所有者である脇屋商会在さんが管理するべきである。	C	
地獄釜		・現状維持(個人の管理)	生活に欠かせないものだった。	B	
			昔は地獄釜を共同で使用していた。	B	
			火傷や怪我の責任を取れないため共同使用はなくなった。	B	
			岡本屋・えびすや・脇屋商会在が地獄釜を所有している。	B	
			地獄を引くことにより、冬には暖房効果がある。	C	
			現在、地獄釜を個人で庭に引いているところは少ない。以前は個人のを共同で使っていた。	C	
			地獄釜はなくても噴気を引いて利用しているところはある。	C	
	各所有者が維持するのが良い。	C			
気液分離装置<タンク>		・現状維持(個人の管理)	噴気の吹き出る音(地下のマグマの音)を抑えるために湯けむり装置がある。	C	
			管理方法は個人で行うべきである。	C	
湯の花小屋		・現状維持(個人の管理)	現在は材料(青粘土、茅、藁)が充分調達できず、需要も少ない。	A	
			湯の花小屋を製造しているのは、脇屋商会在、岡本屋、加藤商店、みどり荘の4つの業者。	A	
			脇屋商会在(14~15棟)・岡本屋・加藤商会在(1棟)・みどり荘(1棟)・草牧が湯の花小屋を所有。	B,C	
			かつては脇屋商会在・岡本屋共に50棟ずつ程所有していた。	B	
			管理は所有している4件がそれぞれ行うべきである。	C	

表7-4 管理・運営の変遷からみる抽出された意見 [鉄輪温泉地区]

景観群の解釈	言及された要素群	名称	管理・運営方法			
			過去	現在	WSにて抽出された意見	
人工	建造物	温泉(共同)	市有区営温泉	(※1)	地域住民	・現状維持(地域住民の管理) ・組合員不足の改善【地獄原温泉】
		市有市営温泉(熱の湯)	・1935(昭和10)朝日村と別府市の合併後、市営化	別府市	・ルールづくりや有料化など、現状の改善	
		市有市営温泉【指定管理者有り】(蒸し湯)	・1935(昭和10)朝日村と別府市の合併後、市営化	別府市 (指定管理者・鉄輪温泉共栄会)	-	
		温泉(民間)	私有私営温泉(ひょうたん温泉)	個人	個人	-
		旅館・貸間		個人	個人	・後継者不足の改善 ・現状維持(個人の管理)
		寺社	温泉神社	地域住民 ・各町内から2名ずつ選ばれる	地域住民 ・各町内から2名ずつ選ばれる	・現状維持(地域住民の管理)
			温泉山永福寺	個人	個人	-
	その他	安楽屋	個人	個人	-	
	設備	遺構		・1935(昭和10)朝日村と別府市の合併後、市営化(※2)	別府市	-
		地獄		個人	個人	・現状維持(個人の管理)
地獄釜			地域住民	個人	・現状維持(個人の管理) ・維持・管理の費用確保	
気液分離装置		気液分離装置<タンク>	個人	個人 ・泉源は、泉源ごとに存在する温泉管理組合が所有している	・現状維持(個人の管理)	

表7-5 管理・運営の変遷からみる抽出された意見 [明礬温泉地区]

景観群の解釈	言及された要素群	名称	管理・運営方法			
			過去	現状	WSにて抽出された意見	
自然	自然現象	地獄	明礬地獄	個人	個人	・現状維持(個人の管理)
人工	建造物	温泉(共同)	市有市営温泉	・1935(昭和10)朝日村と別府市の合併後、市営化	別府市	・現状維持(別府市役所の管理) ・ルールづくりなど現状の改善
		私有温泉	地域住民 ・明礬地区東部の住民で管理	地域住民 ・明礬地区東部の住民で管理	・現状維持(地域住民の管理)	
		旅館・貸間		個人	個人	・現状維持(個人の管理)
		その他	湯の花組合事務所跡・倉庫	地域住民	個人	・現状維持(個人の管理)
	設備	遺構	地蔵泉の滝湯跡	・1935(昭和10)朝日村と別府市の合併後、市営化	土地:別府市の所有 ・管理(掃除など)は地域住民	・現状維持(地域住民の管理)
			薬師湯の滝湯跡	(※3)	個人	・現状維持(個人の管理)
		地獄釜		地域住民	個人	・現状維持(個人の管理)
		気液分離装置	気液分離装置<タンク>	個人	個人	・現状維持(個人の管理)
		湯の花小屋		・1904(明治37)~1949(昭和24)は「湯の花組合」が存在し、組合員が所有・管理	個人	・現状維持(個人の管理)
		その他	湯の花製造所の石製門	個人	個人	・現状維持(個人の管理)

(※1)	・過去の管理が明らかになっていない。
(※2)	・「茶の湯の滝湯跡」「熱の湯の湯元跡」「むし湯跡」が該当するが、「洗濯場」については過去の管理は明らかになっていない。
(※3)	・昭和30年代前半まで使用が確認されているが、過去の管理は明らかになっていない



両地区全体の管理・運営の方向性を以下にまとめる。

管理・運営方法について言及のあった要素は、全体的に「現在の管理方法で良いのではないか」という「現状維持」の意見が抽出された。しかし、「現状維持」との声が聞かれる一方では、現状の管理・運営方法での問題点も抽出された。住民から抽出された管理・運営の方向性を、各要素の変遷のタイプごとに分類し表7-6に示す。表中の色は、表7-4、7-5において同じ色で表されている要素を指す。

- 変遷タイプ1：過去・現在まで住民個人によって管理されている要素は今後も個人での管理とされるが、管理方法の存続が少なからず危ぶまれている。今後、第三者や地域住民による管理方法も考慮する必要がある。
- 変遷タイプ2：現状で地域住民により管理方法が定まっている要素は、既に地域のなかで管理する方法が定着しており、今後も地域住民による管理とされる。
- 変遷タイプ3：過去に地域住民で管理され、現在個人で管理されている要素は今後も個人での管理とされるが、管理方法の存続が危ぶまれる。そのため、何らかのルールづくりを行った上での地域住民による管理方法も今後考える必要がある。
- 変遷タイプ4：現在別府市により管理されている要素は、現状維持とされる一方、ルールづくりの必要性が生じている等、利用に関する問題が存在する。今後管理・運営方法を見直す必要があり、地域住民による管理方法への転換も一つの解決策として挙げられる。

表7-6 管理・運営の変遷タイプからみる今後の方針

変遷タイプ	管理・運営方法		
	過去	現在	今後
1	個人	個人	・現状維持(個人) ・他の主体による管理・運営
2	(*)	地域住民	・現状維持(地域住民)
3	地域住民	個人	・現状維持(個人) ・他の主体による管理・運営
4	別府市	別府市	・現状維持 ・現状の管理・運営方法の改善

(\*)過去の管理方法によらない

(※) 表中の色は、表7-4、7-5において同じ色で表されている要素と対応している。